

平成 23 年 度  
( 2011 )

履 修 要 綱

昭和音楽大学  
大学院音楽研究科(修士課程)

平成23年度  
(2011年度)

## 履修要綱

この履修要綱は、修了するまでの間の履修について定めたものです。

修了まで大切に保管し、熟読して下さい。

### 目次

1	人材養成目的	.....	2
2	研究計画書等の提出について	.....	3
3	修士論文または修士研究について	.....	4
4	成績評価	.....	5
5	教育職員免許状(専修免許状)の取得について	.....	5
6	音楽研究科教育課程・履修例	.....	6

## 1 人材養成目的

音楽研究科 人材養成目的	
<p>音楽とその関連分野に於ける高度な専門教育を行う。専門領域での実践・研究によって専門分野に貢献し、文化・社会の発展に寄与する人材を育成することを目指す。また、国際的な活動を視野に入れ、その基礎となるコミュニケーション能力を培い、他と和してひとつのものを作り上げるアンサンブル力を養っていく。</p>	

専攻	人材養成目的
<b>音楽芸術表現専攻</b> 声楽(オペラ) ピアノ 弦・管・打楽器 電子オルガン 作曲 指揮	<p>本学の音楽芸術表現専攻は、音楽を通して自己を表現する優れた人材を養成し、演奏・創作およびその関連分野における高度な専門教育を行う。</p> <p>学生の専門とする分野に応じ、実践的な研究を通じて、国際的な活動を視野に入れた声楽(オペラ)、器楽のソロ演奏、室内楽、伴奏等の演奏家や、器楽曲や管弦楽曲に関わる作曲家や指揮者、専門技術とコミュニケーション能力を合わせ持つ優れた指導者を育てる。</p>
<b>音楽芸術運営専攻</b> アートマネジメント 音楽療法	<p>本学の音楽芸術運営専攻は、音楽に関する知識・技能を応用することで、広く社会や人々に貢献する優れた人材を養成し、実践・研究およびその関連分野における高度な専門教育を行う。</p> <p>アートマネジメントにおいては、国際的な活動を視野に入れ、「芸術文化活動の担い手」としてのプロフェッショナルリーダーを育てる。</p> <p>音楽療法においては、高度な専門的能力を発揮し、医療・福祉・教育等の分野における実践や研究を通して社会に貢献できる人材を育てる。</p>

## 2 研究計画書等の提出について

大学院音楽研究科修士課程では、毎学年度に自らの「研究計画」を作成し、それに従って研究を行っていかねばなりません。これは、学校教育法にもとづく「大学院設置基準」、および本学「大学院規則」に定められています。この「研究計画書」に加え、本学では、「ポートフォリオ」と「**修士論文・修士研究執筆計画書**」を、毎学年度のはじめに、所定の形式で所定の期日までに提出する必要があります。

### ①「研究計画書」(大学院1年次・2年次)

大学院における研究テーマ(修士課程2年間を通じて研究したいと考えているテーマ)、および本年度の具体的な研究計画(当該年次の1年間、自分が課題として取り組むこと)

### ②「ポートフォリオ」(大学院1年次・2年次)

専攻分野に関する研究・研鑽の実績(これまでの活動歴・受賞歴等)

### ③「**修士論文・修士研究執筆計画書**」(論文執筆学年のみ)

修士論文または修士研究の題目、および当該年度の具体的な執筆計画

「①」・「②」は専攻実技等の指導教員、「③」は修士論文または修士研究の指導教員と相談の上作成し、その承諾のサインを得ることが必要です。これらを作成する目的は、

- ・ 学生各自が、自身の研究や勉学についての明確なビジョンを持つ
- ・ 各学生と指導教員との密な協力体制を作る
- ・ 大学院での研究・勉学を、卒業後のキャリアデザインに生かす**ことです**。

各自、研究計画書にもとづいて、指導教員らと密接にコミュニケーションを図り、修士課程での学びをより充実したものとするように心がけてください。詳しくは、ガイダンス時に説明しますので、その指示に従ってください。

### 3 修士論文または修士研究について

大学院での学びの総仕上げとして、第2年次には「修士論文」または「修士研究」の執筆が義務付けられています。「修士論文」または「修士研究」を提出した者は、**その内容についての審査**を受けなければなりません。さらに、「修士論文」については、中間発表、および論文の内容に関することを中心とする口頭試問を受ける必要があります。

#### 【音楽芸術表現専攻の場合】

執筆に当たっては、2年次に履修する「**課題研究Ⅰ**」(修士論文の選択の場合)または「**課題研究Ⅱ**」(修士研究を選択の場合)の授業内で指導を受けます。

#### 【音楽芸術運営専攻の場合】

「音楽芸術運営特別演習」の授業の一環として、それぞれ修士論文を執筆します。

また、1年次から、数度にわたって修士論文または修士研究に関するガイダンスを行いますので、そのすべてに必ず出席するようにしてください。執筆・提出に関する詳細は、このガイダンス、および専攻ごとに配付する修士論文執筆マニュアルで発表されますので、それに従ってください。

#### 【修士論文に関するスケジュールの概要】

(年度ごとの詳細なスケジュールは、年度当初のガイダンスで発表する)

4月上旬	修士論文題目(和文・英文)の提出 *以後題目を変更する際には、「題目変更届」の提出が必要となる
10月ごろ	修士論文中間発表
12月下旬 (年内の最終授業日)	論文提出
1月	論文審査・最終試験

## 4 成績評価

- ① 成績評価基準は、S(100～90点)・A(89～80点)・B(79～70点)・C(69～60点)・F(59点以下)とし、C以上を合格として単位を認定する。Fは不合格とする。
- ② また、S(4ポイント)・A(3ポイント)・B(2ポイント)・C(1ポイント)・F(0ポイント)として、単位当たりの成績評価の平均値を示すGPA(グレードポイントアベレージ)を算出する。
- ③ 成績評価方法については、各授業科目によって異なるのでシラバスによって明示する。

## 5 教育職員免許状(専修免許状)の取得について

### 【教育職員免許状(専修免許状)の取得について】

取得可能な専攻		免許種類	教科
音楽研究科	音楽芸術表現専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	音楽
	音楽芸術運営専攻		

#### <取得要件>

- ・ 修士の学位を有すること
- ・ 教科に関する科目、教職に関する科目、教科または教職に関する科目をそれぞれ所定の単位数修得していること

※ 中学校教諭一種または高等学校教諭一種免許を持っている学生が大学院を修了すると、専修免許状が取得できます。

※ 取得手続きや詳細については、修了年次で開催される一括申請ガイダンスにて確認してください。また、教務課備付の教員免許状一括申請要領冊子を参照してください。

## 6 音楽研究科教育課程・履修例

### 音楽芸術表現専攻(声楽(オペラ))

声楽(オペラ)	
カリキュラムポリシー	オペラの分野において専門性の高い研究を行うために、研究計画書を作成して目標を定め、それに基づいて研究を進める。 最も重要なのは、オペラ公演に必要な応用力を培うための総合的なグループ指導を受けると同時に、声楽の個人レッスンを受けることによって、様々なスタイルのオペラに対応できる歌唱技術を身につけることである。さらにオペラを総合的に習得するために、舞台語表現や舞台表現法などを学ぶ。また音楽全般、芸術全般にわたる広範な知識を身につけるよう指導すると同時に、演奏することと論理的に思考することの統合を図るべく修士論文または修士研究の執筆を義務づける。
ディプロマポリシー	研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。 具体的には、 ・ オペラの試演会や声楽の実技試験などを通して、入学時に比べてより高度の歌唱技術、オペラ公演に必要な優れた表現能力が身についたことが確認されること ・ オペラに関連した広範な知識と教養を得たことが、試験により確認されること ・ 音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めることである。 その上で、学位審査に通ることが必要である。

#### 【履修例】

専門科目 必修	音楽芸術表現実技演習① 音楽芸術表現実技演習② 音楽研究法基礎	4 4 1
	↓	
専門科目 選択必修	課題研究Ⅱ	1
	↓	
専門科目 コース必修	オペラ特別演習① オペラ特別演習② 伊語発音表現研究① 伊語発音表現研究②	4 4 1 1
	↓	
専門科目 コース選択必修	実践仏語研究 実践独語研究	1 1
	↓	
専門科目 コース選択	舞台表現研究Ⅰ 舞台表現研究Ⅱ 声楽アンサンブル研究	1 1 1
	↓	
共通科目	学外実習研究① 学外実習研究② 作品研究特殊講義Ⅰ 音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ 音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ 実践伊語研究① 実践伊語研究②	1 1 2 2 2 1 1

↓↓↓  
32単位以上

35

#### 【基本的な注意事項】

- ・ 右表中※印は選択必修
- ・ 履修例を参考に履修登録をすること

#### 【実技試験注意事項】

課題曲、演奏時間は次のとおりとする。

- |     |                          |
|-----|--------------------------|
| 1年次 | 歌曲とオペラアリア<br>各1曲(10分以内)  |
| 2年次 | オペラアリアを含む20分以内の<br>プログラム |

音楽芸術表現専攻(声楽(オペラ))

専攻	授業科目	1年次		2年次	
		必修	選択	必修	選択
声 楽 ( オ ペ ラ )	音楽芸術表現実技演習①	4			
	音楽芸術表現実技演習②			4	
	オペラ特別演習①	4			
	オペラ特別演習②			4	
	舞台表現研究Ⅰ		1		
	舞台表現研究Ⅱ		1		
	伊語発音表現研究①	1			
	伊語発音表現研究②	1			
	声楽アンサンブル研究		1		
	実践仏語研究		1※		
	実践独語研究		1※		
	音楽研究法基礎	1			
	課題研究Ⅰ(修士論文)			2※	
	課題研究Ⅱ(修士研究)			1※	
	学外実習研究①		1		
	学外実習研究②				1
	音楽学研究①		1		
	音楽学研究②				1
	ピリオド演奏研究Ⅰ		2		
	ピリオド演奏研究Ⅱ		2		
	作品研究特殊講義Ⅰ		2		
	作品研究特殊講義Ⅱ		2		
	作品研究特殊講義Ⅲ		2		
	作品研究特殊講義Ⅳ		2		
	西洋音楽史研究Ⅰ		2		
	西洋音楽史研究Ⅱ		2		
	西洋音楽史研究Ⅲ		2		
	西洋音楽史研究Ⅳ		2		
	音楽指導論特殊講義		2		
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ		2		
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅰ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅱ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅲ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅳ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅴ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅵ		2		
	実践英語研究①		1		
	実践英語研究②		1		
	実践伊語研究①		1		
実践伊語研究②		1			
音楽音声学研究①		2			
音楽音声学研究②		2			
英語原典特殊研究Ⅰ		1			
英語原典特殊研究Ⅱ		1			



# 音楽芸術表現専攻(ピアノ)

ピアノ	
カリキュラムポリシー	<p>ピアノの分野において専門性の高い研究を行うために、研究計画書を作成して目標を定め、それに基づいて研究を進める。</p> <p>最も重要なのは、徹底した個人レッスンを通して、ピアノ演奏を技術と表現方法の両面から深く研究し、高い演奏技術と表現力を獲得することである。さらに小規模編成や大規模編成の合奏および伴奏能力の向上に努めるとともに、指導者としての能力を身につけることで、社会の多様なニーズに対応できる即戦力の養成を目指す。また音楽全般、芸術全般にわたる広範な知識を身につけるよう指導すると同時に、演奏することと論理的に思考することの統合を図るべく修士論文または修士研究の執筆を義務づける。</p>
ディプロマポリシー	<p>研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ピアノの実技試験を通して、入学時に比べてより高度の演奏能力を身につけ、ピアニスト、または室内楽奏者や伴奏者、および指導者として将来活躍できる可能性があることと認められること</li> <li>ピアノ演奏や指導についての広範な知識や能力が身についたことが、試験により確認できること。また試験やコンサート等を通して、より高度な合奏能力や伴奏能力を獲得したことが確認できること</li> <li>音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めることである。</li> </ul> <p>その上で、学位審査に通ることが必要である。</p>

## 【履修例】

	(例1) 演奏家を目指す	(例2) 指導者を目指す	(例3) 伴奏者を目指す
専門科目 必修	音楽芸術表現実技演習① 4 音楽芸術表現実技演習② 4 音楽研究法基礎 1	音楽芸術表現実技演習① 4 音楽芸術表現実技演習② 4 音楽研究法基礎 1	音楽芸術表現実技演習① 4 音楽芸術表現実技演習② 4 音楽研究法基礎 1
	↓	↓	↓
専門科目 選択必修	課題研究Ⅱ 1	課題研究Ⅰ 2	課題研究Ⅱ 1
	↓	↓	↓
専門科目 コース選択	室内楽特別演習① 2 室内楽特別演習② 2 合奏特別演習① 2 合奏特別演習② 2	合奏特別演習① 2 合奏特別演習② 2 指導法特別演習 2	室内楽特別演習① 2 室内楽特別演習② 2 合奏特別演習① 2 ピアノ伴奏研究① 2 ピアノ伴奏研究② 2
	↓	↓	↓
共通科目	学外実習研究① 1 学外実習研究② 1 ピリオド演奏研究Ⅰ 2 ピリオド演奏研究Ⅱ 2 作品研究特殊講義Ⅲ 2 西洋音楽史研究Ⅳ 2 音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ 2 実践英語研究① 1 実践英語研究② 1	作品研究特殊講義Ⅲ 2 作品研究特殊講義Ⅳ 2 西洋音楽史研究Ⅰ 2 西洋音楽史研究Ⅱ 2 西洋音楽史研究Ⅲ 2 西洋音楽史研究Ⅳ 2 音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ 2 音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ 2	学外実習研究① 1 学外実習研究② 1 ピリオド演奏研究Ⅰ 2 ピリオド演奏研究Ⅱ 2 作品研究特殊講義Ⅰ 2 実践英語研究① 1 実践英語研究② 1 実践伊語研究① 1 実践伊語研究② 1
	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓
	32単位以上 32	32単位以上 33	32単位以上 32

## 【基本的な注意事項】

- 右表中※印は選択必修
- 履修例を参考に履修登録をすること

## 【実技試験注意事項】

演奏時間は次のとおりとする。それぞれの試験課題曲については、その都度発表する。

- 1年次 30分
- 2年次 60分

音楽芸術表現専攻(ピアノ)

専攻	授業科目	1年次		2年次	
		必修	選択	必修	選択
ピ ア ノ	音楽芸術表現実技演習①	4			
	音楽芸術表現実技演習②			4	
	室内楽特別演習①		2		
	室内楽特別演習②				2
	合奏特別演習①		2		
	合奏特別演習②				2
	指導法特別演習		2		
	ピアノ伴奏研究①		2		
	ピアノ伴奏研究②				2
	実践仏語研究		1		
	実践独語研究		1		
	音楽研究法基礎	1			
	課題研究Ⅰ(修士論文)			2※	
	課題研究Ⅱ(修士研究)			1※	
	学外実習研究①			1	
	学外実習研究②				1
	音楽学研究①		1		
	音楽学研究②				1
	ピリオド演奏研究Ⅰ		2		
	ピリオド演奏研究Ⅱ		2		
	作品研究特殊講義Ⅰ		2		
	作品研究特殊講義Ⅱ		2		
	作品研究特殊講義Ⅲ		2		
	作品研究特殊講義Ⅳ		2		
	西洋音楽史研究Ⅰ		2		
	西洋音楽史研究Ⅱ		2		
	西洋音楽史研究Ⅲ		2		
	西洋音楽史研究Ⅳ		2		
	音楽指導論特殊講義		2		
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ		2		
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅰ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅱ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅲ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅳ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅴ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅵ		2		
	実践英語研究①		1		
	実践英語研究②		1		
	実践伊語研究①		1		
実践伊語研究②		1			
音楽音声学研究①		2			
音楽音声学研究②		2			
英語原典特殊研究Ⅰ		1			
英語原典特殊研究Ⅱ		1			

# 音楽芸術表現専攻(弦・管・打楽器)

弦・管・打楽器	
カリキュラムポリシー	<p>弦・管・打楽器の分野において専門性の高い研究を行うために、研究計画書を作成して目標を定め、それに基づいて研究を進める。</p> <p>最も重要なのは、専攻楽器の徹底した個人レッスンを通して、高い演奏技術と表現力を獲得することである。さらに小規模編成や大規模編成についての高度な合奏能力を養うと同時に、専攻楽器の指導のための実践的な技術や知識を身につける。また音楽全般、芸術全般にわたる広範な知識を身につけるよう指導すると同時に、演奏することと論理的に思考することの統合を図るために修士論文または修士研究の執筆を義務づける。</p>
ディプロマポリシー	<p>研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専攻楽器の実技試験を通して、入学時に比べてより高度の演奏能力を身につけ、ソリスト、またはオーケストラや吹奏楽、室内楽奏者、および指導者として将来活躍できる可能性があることと認められること</li> <li>・ 専攻楽器の演奏や指導についての広範な知識や能力が身についたことが、試験により確認できること。また試験やコンサート等を通して、より高度な合奏能力を獲得したことが確認できること</li> <li>・ 音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めること</li> </ul> <p>である。</p> <p>その上で、学位審査に通ることが必要である。</p>

## 【履修例】

	(例1) 演奏家を目指す	(例2) 指導者を目指す
専門科目 必修	音楽芸術表現実技演習① 4 音楽芸術表現実技演習② 4 音楽研究法基礎 1	音楽芸術表現実技演習① 4 音楽芸術表現実技演習② 4 音楽研究法基礎 1
	↓	↓
専門科目 選択必修	課題研究Ⅱ 1	課題研究Ⅰ 2
	↓	↓
専門科目 コース必修	室内楽特別演習① 2 合奏特別演習① 2 オーケストラ・スタディ特別演習① 2	室内楽特別演習① 2 合奏特別演習① 2 オーケストラ・スタディ特別演習① 2
	↓	↓
専門科目 コース選択	室内楽特別演習② 2 合奏特別演習② 2 オーケストラ・スタディ特別演習② 2	室内楽特別演習② 2 合奏特別演習② 2
	↓	↓
共通科目	学外実習研究① 1 学外実習研究② 1 ピリオド演奏研究① 2 ピリオド演奏研究② 2 西洋音楽史研究Ⅰ 2 作品研究特殊講義Ⅱ 2	ピリオド演奏研究① 2 作品研究特殊講義Ⅱ 2 西洋音楽史研究Ⅰ 2 西洋音楽史研究Ⅱ 2 音楽指導論特殊講義 2 実践英語研究① 1 実践英語研究② 1
	↓↓↓	↓↓↓
	32単位以上	32単位以上
	32	33

## 【基本的な注意事項】

- ・ 右表中※印は選択必修
- ・ 履修例を参考に履修登録をすること

## 【実技試験注意事項】

- |          |                            |
|----------|----------------------------|
| 1年次 期末試験 | 15分以内<br>(チューニング等準備の時間を含む) |
| 2年次 修了演奏 | 60分以内<br>(演奏会形式による)        |

音楽芸術表現専攻(弦・管・打楽器)

専攻	授業科目	1年次		2年次	
		必修	選択	必修	選択
弦・管・打楽器	音楽芸術表現実技演習①	4			
	音楽芸術表現実技演習②			4	
	室内楽特別演習①	2			
	室内楽特別演習②				2
	合奏特別演習①	2			
	合奏特別演習②				2
	オーケストラ・スタディ特別演習①	2			
	オーケストラ・スタディ特別演習②				2
	実践仏語研究		1		
	実践独語研究		1		
	音楽研究法基礎	1			
	課題研究Ⅰ(修士論文)				2※
	課題研究Ⅱ(修士研究)				1※
	学外実習研究①			1	
	学外実習研究②				1
	音楽学研究①			1	
	音楽学研究②				1
	ピリオド演奏研究Ⅰ			2	
	ピリオド演奏研究Ⅱ			2	
	作品研究特殊講義Ⅰ			2	
	作品研究特殊講義Ⅱ			2	
	作品研究特殊講義Ⅲ			2	
	作品研究特殊講義Ⅳ			2	
	西洋音楽史研究Ⅰ			2	
	西洋音楽史研究Ⅱ			2	
	西洋音楽史研究Ⅲ			2	
	西洋音楽史研究Ⅳ			2	
	音楽指導論特殊講義			2	
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ			2	
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ			2	
	音楽マネジメント特殊講義Ⅰ			2	
	音楽マネジメント特殊講義Ⅱ			2	
	音楽マネジメント特殊講義Ⅲ			2	
	音楽マネジメント特殊講義Ⅳ			2	
	音楽マネジメント特殊講義Ⅴ			2	
	音楽マネジメント特殊講義Ⅵ			2	
	実践英語研究①			1	
	実践英語研究②			1	
	実践伊語研究①			1	
	実践伊語研究②			1	
	音楽音声学研究①			2	
	音楽音声学研究②			2	
英語原典特殊研究Ⅰ			1		
英語原典特殊研究Ⅱ			1		

# 音楽芸術表現専攻(電子オルガン)

電子オルガン	
カリキュラムポリシー	電子オルガンの分野において専門性の高い研究を行うために、研究計画書を作成して目標を定め、それに基づいて研究を進める。 最も重要なのは、徹底した個人レッスンを通して、高い演奏技術や表現法を獲得することである。さらに、さまざまな形態の合奏の研究・実践ならびに、指導のための実践的研究を行う。また音楽全般、芸術全般にわたる広範な知識を身につけるよう指導すると同時に、演奏することと論理的に思考することの統合を図るために修士論文または修士研究の執筆を義務づける。
ディプロマポリシー	研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。 具体的には、 <ul style="list-style-type: none"> <li>電子オルガンの実技試験を通して、入学時に比べてより高度の演奏能力を身につけ、ソリストまたはアンサンブルのプレイヤー、および指導者として将来活躍できる可能性があることと認められること</li> <li>電子オルガンの演奏や指導についての広範な知識や能力が身についたことが、試験により確認できること。また試験やコンサート等を通して、より高度な合奏能力を獲得したことが確認できること</li> <li>音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めること</li> </ul> である。 その上で、学位審査に通ることが必要である。

## 【履修例】

	(例1) 演奏家を目指す	(例2) 指導者を目指す
専門科目 必修	音楽芸術表現実技演習① 4 音楽芸術表現実技演習② 4 音楽研究法基礎 1	音楽芸術表現実技演習① 4 音楽芸術表現実技演習② 4 音楽研究法基礎 1
	↓	↓
専門科目 選択必修	課題研究Ⅱ 1	課題研究Ⅰ 2
	↓	↓
専門科目 コース必修	室内楽特別演習① 2	室内楽特別演習① 2
	↓	↓
専門科目 コース選択	室内楽特別演習② 2 合奏特別演習① 2 合奏特別演習② 2	合奏特別演習① 2 指導法特別演習 2
	↓	↓
共通科目	学外実習研究① 1 学外実習研究② 1 作品研究特殊講義Ⅱ 2 作品研究特殊講義Ⅳ 2 西洋音楽史研究Ⅲ 2 西洋音楽史研究Ⅳ 2 音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ 2 音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ 2 実践英語研究① 1	学外実習研究① 1 学外実習研究② 1 作品研究特殊講義Ⅱ 2 作品研究特殊講義Ⅳ 2 西洋音楽史研究Ⅱ 2 西洋音楽史研究Ⅲ 2 西洋音楽史研究Ⅳ 2 音楽指導論特殊講義 2 実践英語研究① 1 実践英語研究② 1
	↓↓↓	↓↓↓
	32単位以上 33	32単位以上 33

## 【基本的な注意事項】

- ・ 右表中※印は選択必修
- ・ 履修例を参考に履修登録をすること

## 【実技試験注意事項】

演奏時間は次のとおりとする。  
1年次 20分  
2年次 30分

音楽芸術表現専攻(電子オルガン)

専攻	授業科目	1年次		2年次	
		必修	選択	必修	選択
電子 オル ガン	音楽芸術表現実技演習①	4			
	音楽芸術表現実技演習②			4	
	室内楽特別演習①	2			
	室内楽特別演習②				2
	合奏特別演習①		2		
	合奏特別演習②				2
	指導法特別演習		2		
	実践仏語研究		1		
	実践独語研究		1		
	音楽研究法基礎	1			
	課題研究Ⅰ(修士論文)			2※	
	課題研究Ⅱ(修士研究)			1※	
	学外実習研究①		1		
	学外実習研究②				1
	音楽学研究①		1		
	音楽学研究②				1
	ピリオド演奏研究Ⅰ		2		
	ピリオド演奏研究Ⅱ		2		
	作品研究特殊講義Ⅰ		2		
	作品研究特殊講義Ⅱ		2		
	作品研究特殊講義Ⅲ		2		
	作品研究特殊講義Ⅳ		2		
	西洋音楽史研究Ⅰ		2		
	西洋音楽史研究Ⅱ		2		
	西洋音楽史研究Ⅲ		2		
	西洋音楽史研究Ⅳ		2		
	音楽指導論特殊講義		2		
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ		2		
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅰ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅱ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅲ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅳ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅴ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅵ		2		
	実践英語研究①		1		
	実践英語研究②		1		
	実践伊語研究①		1		
	実践伊語研究②		1		
	音楽音声学研究①		2		
音楽音声学研究②		2			
英語原典特殊研究Ⅰ		1			
英語原典特殊研究Ⅱ		1			

# 音楽芸術表現専攻(作曲)

作曲	
カリキュラムポリシー	<p>作曲の分野において専門性の高い研究を行うために、研究計画書を作成して目標を定め、それに基づいて研究を進める。</p> <p>最も重要なのは、徹底した個人レッスンを通して、個性を伸ばし、音楽的感性を備えた専門性の高い作品を作る能力を養うことである。さらに、緻密で構築度の高い作曲技法の研究を行うことで、高度な分析能力を身につける。また音楽全般、芸術全般にわたる広範な知識を身につけるよう指導すると同時に、創作することと論理的に思考することの統合を図るために修士論文または修士研究の執筆を義務づける。</p>
ディプロマポリシー	<p>研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品審査を通して、入学時に比べてより高度の作曲技術を身につけ、芸術音楽の作曲家として将来活躍できる可能性があることと認められること</li> <li>・ 作品の創作や分析についての広範な知識や能力が身についたことが、試験により確認できること</li> <li>・ 音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めることである。</li> </ul> <p>その上で、学位審査に通ることが必要である。</p>

## 【履修例】

専門科目	音楽芸術表現実技演習①	4
必修	音楽芸術表現実技演習②	4
	音楽研究法基礎	1
↓		
専門科目	課題研究 I	2
選択必修		
↓		
専門科目	楽曲分析特殊講義	4
コース必修		
↓		
専門科目	室内楽特別演習①	2
コース選択	室内楽特別演習②	2
	ピアノ実技演習①	3
	ピアノ実技演習②	3
	電子音響制作特別演習	2
↓		
共通科目	ペリオド演奏研究 I	2
	ペリオド演奏研究 II	2
	西洋音楽史研究IV	2
	実践英語研究①	1
	実践英語研究②	1
↓↓↓		
	32単位以上	35

## 【基本的な注意事項】

- ・ 右表中※印は選択必修
- ・ 履修例を参考に履修登録をすること

## 【実技試験注意事項】

- ① 提出作品の課題は毎年度、前期中に掲示にて発表する。
- ② 提出作品は、未発表のものに限る。



音楽芸術表現専攻(作曲)

専攻	授業科目	1年次		2年次	
		必修	選択	必修	選択
作曲	音楽芸術表現実技演習①	4			
	音楽芸術表現実技演習②			4	
	室内楽特別演習①		2		
	室内楽特別演習②				2
	楽曲分析特殊講義	4			
	ピアノ実技演習①		3		
	ピアノ実技演習②		3		
	電子音響制作特別演習		2		
	実践仏語研究		1		
	実践独語研究		1		
	音楽研究法基礎	1			
	課題研究Ⅰ(修士論文)			2※	
	課題研究Ⅱ(修士研究)			1※	
	学外実習研究①		1		
	学外実習研究②				1
	音楽学研究①		1		
	音楽学研究②				1
	ピリオド演奏研究Ⅰ		2		
	ピリオド演奏研究Ⅱ		2		
	作品研究特殊講義Ⅰ		2		
	作品研究特殊講義Ⅱ		2		
	作品研究特殊講義Ⅲ		2		
	作品研究特殊講義Ⅳ		2		
	西洋音楽史研究Ⅰ		2		
	西洋音楽史研究Ⅱ		2		
	西洋音楽史研究Ⅲ		2		
	西洋音楽史研究Ⅳ		2		
	音楽指導論特殊講義		2		
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ		2		
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅰ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅱ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅲ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅳ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅴ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅵ		2		
	実践英語研究①		1		
	実践英語研究②		1		
	実践伊語研究①		1		
	実践伊語研究②		1		
音楽音声学研究①		2			
音楽音声学研究②		2			
英語原典特殊研究Ⅰ		1			
英語原典特殊研究Ⅱ		1			



# 音楽芸術表現専攻(指揮)

指揮	
カリキュラムポリシー	<p>指揮の分野において専門性の高い研究を行うために、研究計画書を作成して目標を定め、それに基づいて研究を進める。</p> <p>最も重要なのは、徹底した個人レッスンやオペラやオーケストラなどでの実践的な経験を通して、個性を伸ばし、音楽的感性を備えた専門性の高い指揮者となる能力を養うことである。さらに、作品分析や合奏など、指揮に関わる専門分野についても知識と技術を養う。また音楽全般、芸術全般にわたる広範な知識を身につけるよう指導すると同時に、演奏することと論理的に思考することの統合を図るために修士論文または修士研究の執筆を義務づける。</p>
ディプロマポリシー	<p>研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。</p> <p>具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指揮に関する実技試験を通して、入学時に比べてより高度な能力を身につけ、すぐれた指揮者として将来活躍できる可能性があることと認められること</li> <li>・ 指揮に関連する広範な知識や能力が身についたことが、試験により確認できること</li> <li>・ 音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めることである。</li> </ul> <p>その上で、学位審査に通ることが必要である。</p>

## 【履修例】

専門科目	音楽芸術表現実技演習①	4
必修	音楽芸術表現実技演習②	4
	音楽研究法基礎	1
	↓	
専門科目	課題研究Ⅱ	2
選択必修	↓	
専門科目	室内楽特別演習①	2
コース必修	室内楽特別演習②	2
	楽曲分析特殊講義	4
	ピアノ実技研究①	3
	ピアノ実技研究②	3
	↓	
共通科目	学外実習研究①	1
	学外実習研究②	1
	ペリオド演奏研究Ⅰ	2
	作品研究特殊講義Ⅰ	2
	作品研究特殊講義Ⅱ	2
	実践英語研究①	1
	実践英語研究②	1

↓↓↓  
32単位以上

## 【基本的な注意事項】

- ・ 右表中※印は選択必修
- ・ 履修例を参考に履修登録をすること

音楽芸術表現専攻(指揮)

専攻	授業科目	1年次		2年次	
		必修	選択	必修	選択
指揮	音楽芸術表現実技演習①	4			
	音楽芸術表現実技演習②			4	
	室内楽特別演習①		2		
	室内楽特別演習②				2
	楽曲分析特殊講義		4		
	ピアノ実技演習①		3		
	ピアノ実技演習②		3		
	実践仏語研究		1		
	実践独語研究		1		
	音楽研究法基礎	1			
	課題研究Ⅰ(修士論文)			2※	
	課題研究Ⅱ(修士研究)			1※	
	学外実習研究①		1		
	学外実習研究②				1
	音楽学研究①		1		
	音楽学研究②				1
	ピリオド演奏研究Ⅰ		2		
	ピリオド演奏研究Ⅱ		2		
	作品研究特殊講義Ⅰ		2		
	作品研究特殊講義Ⅱ		2		
	作品研究特殊講義Ⅲ		2		
	作品研究特殊講義Ⅳ		2		
	西洋音楽史研究Ⅰ		2		
	西洋音楽史研究Ⅱ		2		
	西洋音楽史研究Ⅲ		2		
	西洋音楽史研究Ⅳ		2		
	音楽指導論特殊講義		2		
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ		2		
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅰ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅱ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅲ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅳ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅴ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅵ		2		
	実践英語研究①		1		
	実践英語研究②		1		
	実践伊語研究①		1		
	実践伊語研究②		1		
	音楽音声学研究①		2		
音楽音声学研究②		2			
英語原典特殊研究Ⅰ		1			
英語原典特殊研究Ⅱ		1			

# 音楽芸術運営専攻(アートマネジメント)

アートマネジメント	
カリキュラムポリシー	<p>アートマネジメントの分野において専門性の高い研究を行うために、研究計画書を作成して目標を定め、それに基づいて研究を進める。</p> <p>最も重要なのは、アートマネジメントの高度な専門的能力と研究能力を養うために主科の専門科目を学び、修士論文完成に向けての研究を指導することである。さらに、関連諸科目の学習を通して幅広く関連分野の知識を獲得し、実務者(専門職業人)・研究者として芸術文化活動を担うための、コミュニケーション能力と実践力を養う。また音楽全般、芸術全般にわたる広範な知識を身につけるよう指導する。</p>
ディプロマポリシー	<p>研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。</p> <p>具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アートマネジメントに関する高度な専門知識が獲得されていることが、修士論文の内容、および口頭試問を通して確認されること</li> <li>・ 幅広い国際的な見識と実践・研究能力などが確認され、「芸術文化の確かな担い手」たる専門職業人や研究者として社会に貢献すると期待できること</li> <li>・ 音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること</li> </ul> <p>である。</p> <p>その上で、学位審査に通ることが必要である。</p>

## 【履修例】

### (例1) 舞台制作を中心に研究する

専門科目	音楽芸術運営特別演習①	4
必修	音楽芸術運営特別演習②	4
↓		
専門科目	音楽芸術制作研究 I	2
コース選択必修	音楽芸術制作研究 II	2
↓		
専門科目	文化政策研究 I	2
コース選択	音楽芸術環境研究 II	2
	音楽実技演習①	2
	音楽実技演習②	2
↓		
共通科目	学外実習研究①	1
	音楽マネジメント特殊講義 I	2
	音楽マネジメント特殊講義 III	2
	音楽マネジメント特殊講義 IV	2
	音楽マネジメント特殊講義 V	2
	音楽マネジメント特殊講義 VI	2
	実践英語研究①	1
↓↓↓		
	32単位以上	32

### (例2) 文化政策を中心に研究する

専門科目	音楽芸術運営特別演習①	4
必修	音楽芸術運営特別演習②	4
↓		
専門科目	文化政策研究 I	2
必修	文化政策研究 II	2
↓		
専門科目	音楽芸術制作研究 I	2
コース選択	音楽芸術環境研究 I	2
	記述統計特殊講義	2
	音楽実技演習①	2
↓		
共通科目	学外実習研究①	1
	音楽マネジメント特殊講義 I	2
	音楽マネジメント特殊講義 II	2
	音楽マネジメント特殊講義 III	2
	音楽マネジメント特殊講義 V	2
	音楽マネジメント特殊講義 VI	2
	実践英語研究①	1
↓↓↓		
	32単位以上	32

## 【基本的な注意事項】

- ・ 右表中※印は選択必修
- ・ 履修例を参考に履修登録をすること

音楽芸術表現専攻(アートマネジメント)

専攻	授業科目	1年次		2年次	
		必修	選択	必修	選択
アートマネジメント	音楽芸術運営特別演習①	4			
	音楽芸術運営特別演習②			4	
	文化政策研究Ⅰ	2※			
	文化政策研究Ⅱ				
	音楽芸術制作研究Ⅰ	2※			
	音楽芸術制作研究Ⅱ				
	音楽芸術環境研究Ⅰ		2		
	音楽芸術環境研究Ⅱ		2		
	記述統計特殊講義		2		
	音楽実技演習①		2		
	音楽実技演習②				2
	学外実習研究①			1	
	学外実習研究②				1
	音楽学研究①			1	
	音楽学研究②				1
	ピリオド演奏研究Ⅰ			2	
	ピリオド演奏研究Ⅱ			2	
	作品研究特殊講義Ⅰ			2	
	作品研究特殊講義Ⅱ			2	
	作品研究特殊講義Ⅲ			2	
	作品研究特殊講義Ⅳ			2	
	西洋音楽史研究Ⅰ			2	
	西洋音楽史研究Ⅱ			2	
	西洋音楽史研究Ⅲ			2	
	西洋音楽史研究Ⅳ			2	
	音楽指導論特殊講義			2	
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ			2	
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ			2	
	音楽マネジメント特殊講義Ⅰ			2	
	音楽マネジメント特殊講義Ⅱ			2	
	音楽マネジメント特殊講義Ⅲ			2	
	音楽マネジメント特殊講義Ⅳ			2	
	音楽マネジメント特殊講義Ⅴ			2	
	音楽マネジメント特殊講義Ⅵ			2	
	実践英語研究①			1	
	実践英語研究②			1	
	実践伊語研究①			1	
	実践伊語研究②			1	
	音楽音声学研究①			2	
	音楽音声学研究②			2	
英語原典特殊研究Ⅰ			1		
英語原典特殊研究Ⅱ			1		

# 音楽芸術運営専攻(音楽療法)

音楽療法	
カリキュラムポリシー	<p>音楽療法の分野において専門性の高い研究を行うために、研究計画書を作成して目標を定め、それに基づいて研究を進める。</p> <p>最も重要なのは、音楽療法の高度な専門的能力と研究能力を養うために主科の専門科目を学び、修士論文完成に向けての研究を指導することである。さらに、関連諸科目の学習を通して幅広く関連分野の知識を獲得する。また音楽全般、芸術全般にわたる広範な知識を身につけるよう指導すると同時に、音楽実技の向上を目指す。</p>
ディプロマポリシー	<p>研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。</p> <p>具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽療法に関する高度な専門的能力と研究能力が獲得されていることが、修士論文の内容および口頭試問、さらに専門科目の実習・試験等を通して確認されること。</li> <li>音楽療法関連分野の高度な知識が獲得されていることが試験等を通して確認されること</li> <li>音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに、音楽実技の向上が試験等によって確認されること</li> </ul> <p>である。</p> <p>その上で、学位審査に通ることが必要である。</p>

## 【履修例】

		(例1) 実践者を目指す	(例2) 研究者を目指す
専門科目 必修	音楽芸術運営特別演習① 音楽芸術運営特別演習②	4 4	4 4
↓			
専門科目 コース必修	音楽療法上級実習① 音楽療法技能特別演習	2 2	2 2
↓			
専門科目 コース選択必修	心理療法特殊講義 高齢者福祉特殊講義 障がい児教育特殊講義	2 2 2	2 2 2
↓			
専門科目 コース選択	音楽療法上級実習② 音楽療法指導研究 記述統計特殊講義 音楽実技演習① 音楽実技演習②	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2
↓			
共通科目	学外実習研究① 実践英語研究① 音楽音声学研究①	1 1 2	1 1 2
	↓↓↓	32単位以上	32
			32

## 【基本的な注意事項】

- ・ 右表中※印は選択必修
- ・ 履修例を参考に履修登録をすること

## 【実技試験注意事項】 音楽実技演習①・②

<声楽>

- 1年次 自由曲1曲及び日本歌曲1曲(6分以内)
- 2年次 自由曲1曲及び日本歌曲1曲(8分以内)

<ピアノ>

その都度掲示にて発表。

<弦・管・打楽器>

- 1・2年次 自由曲(5分間)

音楽芸術表現専攻(音楽療法)

専攻	授業科目	1年次		2年次	
		必修	選択	必修	選択
音楽療法	音楽芸術運営特別演習①	4			
	音楽芸術運営特別演習②			4	
	音楽療法文献講読研究		2		
	音楽療法上級実習①	2			
	音楽療法上級実習②				2
	音楽療法技能特別演習	2			
	音楽療法指導研究				2
	心理療法特殊講義	2※			
	高齢者福祉特殊講義	2※			
	障がい児教育特殊講義	2※			
	記述統計特殊講義		2		
	推測統計特殊講義		2		
	音楽実技演習①		2		
	音楽実技演習②				2
	学外実習研究①		1		
	学外実習研究②				1
	音楽学研究①		1		
	音楽学研究②				1
	ピリオド演奏研究Ⅰ		2		
	ピリオド演奏研究Ⅱ		2		
	作品研究特殊講義Ⅰ		2		
	作品研究特殊講義Ⅱ		2		
	作品研究特殊講義Ⅲ		2		
	作品研究特殊講義Ⅳ		2		
	西洋音楽史研究Ⅰ		2		
	西洋音楽史研究Ⅱ		2		
	西洋音楽史研究Ⅲ		2		
	西洋音楽史研究Ⅳ		2		
	音楽指導論特殊講義		2		
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅰ		2		
	音楽芸術と社会特殊講義Ⅱ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅰ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅱ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅲ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅳ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅴ		2		
	音楽マネジメント特殊講義Ⅵ		2		
	実践英語研究①		1		
	実践英語研究②		1		
	実践伊語研究①		1		
実践伊語研究②		1			
音楽音声学研究①		2			
音楽音声学研究②		2			
英語原典特殊研究Ⅰ		1			
英語原典特殊研究Ⅱ		1			

学籍番号		氏名	
------	--	----	--